



ちばの学童保育

2012年7月21日発行92号

本号の紙面
千葉県学童保育新人研修会報告 1頁
総会報告/ほいく誌紹介 2頁
学童保育情勢 3頁
全国研案内/県指導員学校案内 4頁

発行者 千葉県学童保育連絡協議会 船橋市本町3-4-3 千葉保育センター内
TEL047-424-8102 FAX047-424-8108 e-mail chibagakudo@nifty.com

第9回千葉県学童保育指導員新人研修会報告

「学童保育指導員の仕事と役割」

講師 ^{きけがわ} 亀卦川 茂氏 (全国学童保育連絡協議会・埼玉県富士見市指導員)

平成24年7月1日(日)千葉市民会館 9:30~11:30

はじめに、現在の子どもたちの学校での生活時間も長くなり、放課後の時間が短く、塾・習い事で多忙な放課後となっている、現在の子どもたちの「疲れ」や「苛立ち」の状況をエピソードを交えながら説明をしてくださいました。そうしたなかで、学童保育指導員の役割から、

子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもとの信頼関係を築くため、子どもの表現(言動)には原因があり、子どもの話したい気持ちを理解し、遊びの中の悔しさ、葛藤の気持ちにも共感する。また、子供同士を繋ぐ橋渡しの役割もある。働きながら子育てをする保護者を励ます姿勢を、実際のクラブたよりを紹介しながら伝えてくれ、指導員同士が理解しあうことが、保育を柔軟にしていくことをわかりやすく話しをしてくださいました。講義終了後は、質疑応答もあり亀卦川氏が心に残る学童保育での出来事をもっと話して欲しいとの要望や、男性指導員への対応についてなども質問がありました。



やさしく講義する亀卦川氏



真剣に講義を聞く姿

「2012年千葉県学童保育連絡協議会総会報告」

2012年6月7日(日)葛飾公民館にて、2012年度総会が開かれました。

はじめに、小川会長より挨拶と学童保育をめぐる情勢について報告があり、特に「子ども・子育て新システム」についてわかりやく説明がありました。2011年活動報告のあと決算報告となり、県連加盟団体数の減少は少ないものの、各地域の連協未加盟・父母会未加盟増加の傾向がわかり、会計監査から活動活性化と財政基盤安定のため、会費収入と「学ほ誌」収入を高めるよう、活動全体の充実を指摘され、大きな課題となりました。



活動方針では、子ども子育て新システムの情報提供とサポートや県連での財源改革案が昨年度と大きく変わった内容となりました。最後に新役員が決まり、紹介されました。総会後は、地域交流も行われました。

【新役員】会長：小川貴敏(船橋市) 副会長：原田昭弘(習志野市) 鈴木美加(八千代市) 事務局長：田村明日香(白井市) 事務局次長：井上隼人(千葉市) 磯村陽子(個人) 常任幹事：千葉順江(個人) 黒須康代(市原市) 伊藤千枝子(四街道市) 佐藤益雄(個人) 松本百合子(船橋市) 会計：石川律子(専従職員) 会計監査：相場康文(個人) 小坂陽一(四街道市)



日本の学童ほいく

日本で唯一の学童保育に関する専門誌です。月刊で発行。1冊330円(送料76円)でお届けします。

学童保育に関するありとあらゆる情報が満載。全国で4万人の人が購読しています。



7月号表紙

7月号特集「またあした!学童保育」です。皆さんにもぜひ読んでもらいたい1冊になっています。

「またあした!」と通い続けられるように - 学童保育で大切にしたいことでは、子ども達が通う学童保育は「生活の場」として、学童保育の役割と歴史が簡単にまとめられています。今回の特集では、働く保護者と子どもにとって学童保育がなくてはならない場所であることを確かめ「学童保育で大切にしたいこと」を考え合います。

~ 保護者、指導員それぞれの立場から感じる「大切な学童保育」があります。

日本の学童ほいくが新しくなりました!

表紙を眺めてみましょう。いままでと何かが違います。「日本の学童ほいく」の文字が違うし、背景も白! さあ、表紙をめくってみましょう。・・・子どもたちの写真! しかもカラー。さらに、ページをめくると・・・、文章がとても読みやすい。など色々リニューアルしています。それでも、これから検討することはたくさんありそうです。あーしたほうがいい、こうしたほうがいいと思うことがありましたら、どんどん意見をきかせてください。地域で、県連で、「日本の学童ほいく」誌を語ってみませんか?

学童保育をめぐる最近の動き



現在、国会では「子ども子育て支援法」「児童福祉法改正案」が、「社会保障と税の一体化」法案をめぐる「三党合意」で一部修正された内容で審議されています。

全国学童保育連絡協議会は、「国の学童保育制度の拡充と児童福祉法改正に対する要望」として以下の内容にまとめ、国会議員に要請することを進めています。

1 学童保育の質の確保のために「最低基準」を含めた制度とし、児童福祉施設として位置づけた国の制度とすること。

学童保育施設は、最低基準を決めて「生活の場」に相応しく整備すること。

指導員の配置基準を決めて、常勤配置できる制度とすること。

指導員の公的資格制度を創設し、養成機関を整備すること。

「最低基準」は現在の学童保育の底上げを図るものとする。

2 市町村の実施責任を明確にして「公的責任」が果たせる制度とすること。

3 国の財政措置が強化される制度とすること。

上記内容の詳細を確認するために7月29日に臨時の「全国運営委員会」を開催し、現在の情勢認識を共有し、今後の取組みについて論議することになっています。

第47回 全国学童保育研究集会

日にち: 2012年10月6日(土) 全体会: さいたまスーパーアリーナ(さいたま市)

10月7日(日) 分科会: 獨協大学(草加市)

記念講演は「子どもへの理解を深め、育ち合いの学童保育をめざして」広木克行氏(大阪千代田短期大学教授)。分科会は、基礎講座から運動を交流する分科会や講義と交流の分科会など30からの分科会の中から選び、一日を通して学習・交流します。今年は特設分科会として「東日本大震災と学童保育」もあります。あなたの気になる講座はきっとあります。地域で誘い合いながら参加してみましょう。詳細はリーフレットをご覧ください。

2012年4月号「日本の学童ほいく」より・・・

「ぜんこくけん」って、なんですか?

正式には、「全国学童保育研究集会」といいます。でも長いし、堅苦しい感じなので、「全国研」とか「全国研究集会」などと呼ばれています。「研究集会」とはいいですが、中身は、「学童保育のことをもっと知りたい」「よりよくしたい」と願う人たちが、北は北海道から南は九州・沖縄まで、日本全国から集まり学び合い、交流する場です。(以下省略)

昨年の第46回開催(滋賀県)の様子は2012年2月号、第45回開催(千葉県)の様子は2011年2月号に掲載しています。ご覧になりたい方は、バックナンバーのご注文も受付けます。



第32回 千葉県学童保育指導員学校



2012年12月2日(日) 開催地未定

ここ数年研修会場の確保が難しくなってきました。そのため、例年と同じ講座を開くことも簡単にはできません。会場に合わせた新たな検討事項も増えてきます。今年の県指導員学校も、これから実行委員会が始まります。皆で話し合いながら、より良い学習・交流の場となるよう、作り上げていこうと思います。詳細が決まりましたら、各地域へお知らせします。